

chapter 1
活動を支える



市民活動
推進プラザ

あなたの活動を
応援します！

DATA

場所=まちづくり協働センター内(駅前町2番1号三田駅前一番館6階)
開所日時=10時~12時30分、13時30分~17時 ※水・日曜、祝日を除く、窓口での相談は電話、ファクス、eメールのいずれかで要事前予約
市民活動に関するZoom相談=電話、ファクス、eメール(kippy-suishin@bz04.plala.or.jp)のいずれかで受け付け
問い合わせ=(559-5168 FAX 559-5169)

三田市で市民活動を行っている、これから市民活動を始めたいと考えている人々をサポートする場所です。「団体の活動を広めたい」「活動する場所が欲しい」「地域活動の担い手がいらない」などさまざまな困りごとや目的に対してアドバイスをしたり、活動の手助けとなる個人や団体を紹介しています。

他のグループと
コラボレーションするには？

ボランティア活動
を始めるには？

新しいグループ
やNPOを立ち
上げるには？



市民活動とは「彩り」
モノクロのまちをカラーにする

三田市は市民活動が活発なまちです。チャレンジしやすい環境や人財があると感じます。これからは、30代、40代の世代に期待。さらに盛りあげ、次世代が「やってみたい」と思えるような姿を見せてほしいです。

「人に寄り添う」こと。窓口に来られる人はもちろん困っています。抱えているケースが多いです。なので、待つだけではなく、活動場所に行き、話を聞いて相談に乗ったりもします。目指す関係は「近所づきあい」、ある意味なれなれしく接することで「まちのオカン」として寄り添っていきたいです。今、市民活動は過渡期です。地域や団体だけでは限界が来ているので、各々がタッグを組むことで新しい活動のカタチへと広がるはずです。

INTERVIEW



事務スタッフ
須田 聡子さん

市民活動団体への活動に関するアドバイスや団体同士のマッチング、ときには団体の会合に参加しています。大切にしている信条は「団体(活動)ファースト」、そして「人に寄り添う」こと。窓口に来られる人はもちろん困っています。抱えているケースが多いです。なので、待つだけではなく、活動場所に行き、話を聞いて相談に乗ったりもします。目指す関係は「近所づきあい」、ある意味なれなれしく接することで「まちのオカン」として寄り添っていきたいです。

特集
みんな
でまちを
デザインする

- ・ミラクルウィッシュ さんだ女子防災部の活動：③⑥
- ・WheelLog さんの活動：①⑤
- ・さんだねこ CLUB の活動：②④



なんとなく、ちょっと遠い存在に感じる「市民活動」。実は、たった一人の思いから始まります。たとえば、「美しい自然やまち並みに囲まれて暮らしたいのに、いつも散歩する公園にゴミが落ちていて」と気づいたとき、また「小さな子ども連れでもホッとできる居場所があったらいいな」と思い立ったとき、自分の生活だけでなく、地域も社会もよくしたいと行動すれば、それは「市民活動」の始まりです。

一人の力は小さくても、あなたの思いを周りに伝えることで一緒に活動する仲間や必要な資源(場所、労力、資金など)を支援してくれる協力者が三田市にはいます。

まちづくりは行政だけでも、地域だけでも、団体だけでもない——みんなで協力して取り組んでいくもの。そのためには、私たち一人一人がまちのことを考え、活動に参加していくことが必要です。

今号は、市内で市民活動に関わる人、場所などの紹介を通じて、これからの市民活動の在り方について考えます。



協働事業提案制度
「ええやん！やってみよう！」

みんなを笑顔にする、困りごとを助ける、地域を元気にする、皆さんのちょっとした小さな提案を「協働・共創のまちづくり」を目指す三田市が応援します。

皆さんの思いや得意なこと、誰かやどこかとうつながり、人づくり、地域づくり、まちづくりに関わってみませんか。

「ええやん！やってみよう！」は、資金の応援とつなげる応援がセットになっています。事業計画がまとまっている人も、具体化を思案中の人も気軽に市民活動推進プラザにご相談ください。

申請コース

■スタート応援コース
新たに実施しようとする公益的事業に要する初期費用の一部を補助
申請限度 1年度につき1団体1事業限り
補助金額 2事業に要する経費の100%以内で上限10万円

■ステップアップ支援コース
実績がある公益的事業の定着などを図る提案について、事業費の一部を補助
申請限度 1年度につき1団体1事業限り連続2年まで ※年度ごとに申請・審査があり、継続して補助を受けられない場合があります。
補助金額 2事業に要する経費の90%以内で上限20万円

申し込み (①②のいずれか)

① 申請書を市民活動推進プラザの窓口へ持参し、内容確認
② メールで申請書データを提出後、電話やリモートで内容確認
※5年度の申請受け付けは終了していますが、事業の相談はできます。

スケジュール

- 4/5月 事前相談(市民活動推進プラザ)申請書の提出
- 5/6月 一次審査(書面)二次審査(公開プレゼンテーション)
- 8月 補助金交付決定・概算払い
- 3月 実績報告書の提出
- 4月 公開報告会



▲ 公開報告会

▶ 公開プレゼンテーション



◀ 5年度協働事業提案制度

団体×行政
野良猫は
地域・まちの
環境問題



▲猫の譲渡会の様子

野良猫の活動は、不妊去勢手術費の一部を補助する市の制度を利用して、地域の有志で地域猫活動（不妊去勢手術、適正なエサ場・外用トイレ

飼 い主のいない猫（野良猫）に関するさまざまな苦情や相談が多く寄せられ、生活環境に関わる問題となっています。地域の中には、被害に困っている人もいれば、かわいそうな猫を助けたい人もいます。両者の共通する思いは、「飼主のいない猫の無制限な繁殖を阻止すること」だと思います。私たちはTNR活動（飼主のいない猫を捕獲し、不妊去勢手術を施し、捕まえた場所に返す活動）に取り組みながら、保護猫の譲渡会なども行っています。しかし、私たちの活動だけでは限界があるので、不妊去勢手術費の一部を補助する市の制度を利用して、地域の有志で地域猫活動（不妊去勢手術、適正なエサ場・外用トイレ



さんだねこCLUB
高畑 恵さん

の管理などを展開してほしいと思っています。このように地域で管理をすることで、野良猫の数とトラブルを減らすことができると思っています。野良猫の問題について、今は野良猫の無制限な増加を阻止することが一番いい解決方法だと言われているため、地域から嫌われる猫を少しでも減らせるように取り組んでいます。小さな命をみんなで大切にできる真の豊かなまちを目指して、私たちは活動を続けます。



くら耳

市の補助金制度を使って不妊去勢手術を施した野良猫は、臭いや鳴き声が少なくなります。目印として、耳にV字の切れ込み（さくら耳）が入っており、地域の有志で適正な餌やりやトイレの管理などを行う必要があります。



▲放水の様子

今 回は、私たち「さんだねこCLUB」は地域の子育て世代に防災を知ってもらうため、親子の防災啓発活動と地域とのマッチングを探っていたところ、市民活動推進プラザから紹介され、志手原校区地域づくり協議会と防災イベントを協働で開催できました。初めてのチャレンジでしたが、互いにミーティングを重ね、ビジョンの共有を図ることができ、地域の協力が得られ、当日は約300人も参加。大きな組織での進め方など、地域との関わり方を学べ、私たちにあって大きな財産であり、成長の糧になる経験となりました。

団体×地域
自分たちの
ためではなく、
みんなのために



ミラクルウィッシュ
さんだねこCLUB
益田 紗希子さん

団体と協力することで活動の幅が広がる。校区住民を対象とした防災に関する取り組みを検討していた時、市民活動推進プラザからミラクルウィッシュとやってみたいかと声をかけてもらいました。地域だけでは難しくても、活動団体と手を組むことで活動の幅が広がりました。地域は高齢化が進み、担い手不足が課題です。地域完結型の活動だけではなく、外部人材の力を得ながら地域力の維持・活性化に取り組んでいきたいです。



志手原校区地域
づくり協議会会長
西田 孝夫さん

まちを彩るはじめての第一歩

chapter 2
活動を知る

きっかけは何でもいい、好きなことや興味のあることから、まずは始めてみませんか

「自分のまちで何かしたい!」「何かできることは?」そんな思いを持ち、活動する人たちが三田市にはいます。今回は協働事業提案制度を活用し、活動を続ける3団体に話を聞きました。
※採択団体の提案事業内容は市HP(右記2次元コード)をご覧ください。



chapter 3
市民活動のこれから

協働事業提案制度「ええやん! やってみたい!」公開プレゼンテーション

5年度「協働事業提案制度」応募団体による公開プレゼンテーション（審査会）を開催。自由に傍聴できるので、来年度の申請を考えている人や市民活動などに興味がある人は、ぜひお越しください！ここから新たなつながりが見つかるかもしれません！
日時＝6月24日(土) 10時30分～16時
場所＝ウッドタウン市民センター
問い合わせ＝市民活動推進プラザ(559-5168 FAX 559-5169)



地域共創部長
伊藤 昭一

三田市が目指すのは、協働・共創のまちづくりです。ちよっとした志を基に多様な人々が得意な能力・分野を活かして地域の交流や課題解決に楽しみながら関わり、多様性の中から生まれる新たなアイデアで人口減少にも負けない元気な地域の姿が創造される。そんなまちが目標です。そこで、市役所は2つの事柄に力を入れています。1つが多様な人々・団体・地域、それぞれが抱える課題と解決の知恵を

つなぐ場となる、市民活動推進プラザとまちづくり協議会の活性化や支援。もう1つが、協働事業提案制度による市民活動スタートアップの後押しです。協働事業提案制度は、「ええやん、やってみたい!」のキャッチフレーズのとおり、誰かのためにとなる小さな「思い付き」を補助金と市民活動推進プラザによる助言でカタチにする仕組みです。制度を活用して昨年度は、今回の特集でコメントをいただいた皆さんを含む9件の提案が新たに広げるといった成果もあげていただきました。「小商い」のような、ちよっとした市民活動と笑顔の輪があらこちらで花開くまちを夢見ています。

団体×学生
車いすでも安心
して外出できる
きっかけを目指す



WheelLogさんだ
溝口 靖子さん(左)
坂中 美幸さん(右)

誰 もが安心して「外出できる」まちをつくりたいと市に相談した際、紹介された学生団体と一緒に活動を始めました。活動はまちに出かけ、バリアフリーマップを作るアプリ「WheelLog!」の更新。車いすに乗る人、押す人を交互に体験し、身近な施設を当事者目線で巡り、バリアフリーへの気づきを記録します。SNSを見ていると「車いすの姿を見られたくない」「車いすだから外出しにくい」という声がとても多いです。でも、「車いす」とか関係なく、まちには助けてくれる優しい人たちがいることをもっと多くの人に知ってほしい。だから、車いす利用者が「楽しく外出できるまち」を目指して、これから地道に活動を続けていきます。



▲車いすで段差を越える様子

活動で得た気づきをSNSで発信したい



WheelLogさんだ
学生メンバー
星野 遥さん

昨秋からメンバーとして活動に参加し、初めて知ることがたくさん！普段歩く時は気にならない低い段差が、車いすだと衝撃が大きかったり、ゆるやかな坂も移動が大変だったり。車いすの利用者目線で、いつもと違う角度でまちを知ることができました。今後は、SNSで活動の様子を広く発信することで、困っている人に気づき、手を差し伸べる人が増えてほしいです。誰もが住みやすいまちを目指して、活動を頑張りま